

しずおか自治連だより

平成26年8月1日現在推計人口707,119人 自治会・町内会数956会

❖ 一富士 二鷹 三茄子(なすび)



駿府城イメージ図 画家 渡辺重明

富士

家康公の「一富士二鷹三茄子」のことわざや駿府城絵図から静岡清水地区が一体となっていたことが伺われます。静岡清水地区は、駿府城から一望できる範囲を指していたのでしょう。そして駿府城を中心として海から山側まで、金座・茶町・伝馬・鷹匠・有度等々町名の由来のごとく、それぞれの職業に従事し、住民生活(自治会)が形成され多角的に結びついて生活が成り立っていたことが想像されます。西側の丸子には家康公が愛した小豆粥・とろろ汁もあります。また、静岡茶をこよなく愛飲されていたことも周知のとおりです。

葵区鷹匠の東側にある谷津山は西に駿府城下が、北側に竜爪山、東側に富士山、南は駿河湾・伊豆半島の一望できる場所にあり、神社仏閣が多く有る古墳です。ここで、天下人家康公は鷹狩りをしたという言い伝えがあります。

四方を眼下に見渡せる谷津山での鷹狩り、一服に天下人家康公は聖一国師の広められたお茶を飲みながら何かを感じ何を考えていたのでしょうか。



住民(自治会)と行政が一体となって長い視野でまちづくりを「しろ」と家康公が言っているようにも思われます。

世界で唯一260余年の天下泰平の世を築いた徳川家康公の駿府城下まちの生活はどのようなものでしたでしょうか。

平成27年には徳川家康公薨去400年で、節目の年になります。

これを契機に捉え『鳴かぬなら鳴くまでまとうホトギス』の家康公の忍耐精神で益々静岡が安定した静かなる岡であり続けるように自治会員一人ひとりが協力し合い頑張ってください。



清水区の折戸地区で促成栽培された折戸茄子は、将軍家に献上され、家康公が好んで食されたと言われている一品です。



❖ 電話無料法律相談担当弁護士のお知らせ

静岡市自治会連合会では、静岡県弁護士会と連携して、静岡市(葵区、駿河区、清水区)の自治会員の皆様を対象に、電話での無料法律相談(自治会ホームローヤー制度)を実施しています。平日の午前9時から午後6時までの間、1回20分を目安として、毎日相談を受け付けています。皆様の地区を担当する弁護士の連絡先その他詳しい事項は、回覧板あるいは静岡県弁護士会のホームページをご覧ください。各区役所市民相談室にお問い合わせの上、ご確認ください。

静岡市自治会連合会は、地域防災・教育福祉・環境生活安全を守るため、行政と自治会で両輪となり活動しています。静岡市自治会連合会は市民のための組織です。市民皆様方のご理解・ご協力をお願いします。

■ 麻機遊水地紹介します



▲ 賤機山より麻機遊水地を望む
(昭和49年7月7日撮影)



麻機遊水地の起源は、昭和49年7月7日過去に経験した事のない豪雨により、麻機を起点とし清水港にそそぐ、巴川沿線一帯が家屋浸水被害をこうむりました。

その対策として、巴川総合治水対策推進協議会が設立され、国の支援を受けて、県が子供病院を取り巻く、麻機地区の田畑200ヘクタールと言う広大な土地を買い上げ、集中豪雨発生時の保水対策の一環として進めたものです。

■ 現状推移

遊水地は、市中心部より北東直線で5kmに位置し、新東名静岡インター側近当る等、立地条件に恵まれ、この広大な土地を1工区から5工区まで分けけて、各工区ごとに、地域住民と行政との連携を密に遊水地活用方法について推進している。

なお、この遊水地には、絶滅危惧種とされている、貴重な植物・魚類・鳥類等が生息し自然保護の構築と市民に親しまれる、水辺の公園をテーマに検討会を進め、29年度完成を目途に推進している。

今後の保全管理

1工区は麻機学区を中心とした、自然再生を活かし体験型水辺の公園整備を進め、地域事業者と地元愛護会活動を主体とした管理体制を整える。

3工区は、東千代田学区及び地域教育施設の協力のもと管理体制を推進する。

また、4工区については、城北学区及び近隣町内会協力のもと管理保全活動を推進する。



▲ 絶滅危惧種の植物(オニバス)



▲ 絶滅危惧種の魚類(ホトケドジョウ)



▲ 絶滅危惧種の鳥類(カワセミ)

写真：静岡県提供

育てよう環境に優しい駿河区を

静岡市駿河区自治会連合会 会長 坪井英明

近年、地球温暖化による異常気象や生態系の破壊など、環境問題は農作物や人間の健康にも強く影響を及ぼしています。これらの原因は私たちの消費生活が大きく関係しています。

駿河区では、自治会と行政が協働して、「エコライフプロジェクト」を展開し、各家庭や学校に「4Rの推進」と「雑がみは、紙に生まれ変わります」のチラシを配付いたしました。これを参考に生活を見直してみませんか。ひとりの行動が環境の改善だけでなく、家計や市のごみ処理費の節約にも大きくつながります。

未来の子どもたちに、環境に優しい安全なまちを引き継ぐことが自治会の責任と思います。住民参加で明るいまちづくりをしていきましょう。ご協力をお願いします。



広げよう思いやり ストップマット・子ども110番

富士見学区の取組み

地域と学校の話合いで、登下校時の安全や学区内を見直しました。自治会・町内会とPTAが協力して、交差点に90枚のストップマットを貼りました。また、子ども110番の看板を、学区約7000世帯数のうち350軒の協力をお願いしました。子どもたちは、毎日声かけしてくれる地域安全推進員に、笑顔とあいさつで応えています。



東名静岡東スマートインターチェンジ(仮称)

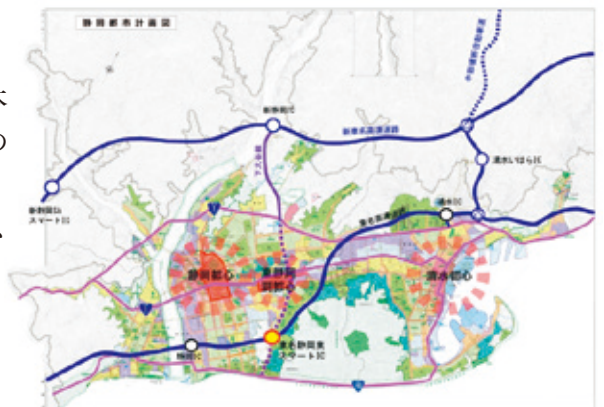
整備事業が本格的スタート 平成29年度末の供用開始目指して!

この新インターチェンジは、24時間、ETC専用の全車種が利用できる本格的なインターチェンジで、道路交通環境の飛躍的な向上により、観光の発展・地域の活性化などの大きな効果が期待されます。

日本平動物園、登呂遺跡、久能山東照宮への観光客や商業施設、草薙総合運動場への来客数も増加が見込まれます。



▲山頂から撮影



用宗城山公園(持舟城址)

駿府を守るために築かれた今川氏の城の一つで、持舟の名のとおり水軍の城として機能していたといわれています。現在、地域で津波避難地として山道の整備をすすめており、用宗駅から気軽にウォーキングを楽しめます。

清水においでよ



興津 OKITSU

興津は海の幸、山の幸に恵まれるとともに、古代から清見が関、薩埵峠など美しい景観は街道を旅する人々を魅了し、古今東西の文人墨客に愛されてきました。また古代から現代まで東海道の重要な拠点として栄え、名刹清見寺、坐漁荘など歴史的建築物が数多く残っております。

「薄寒ざくら祭り」と「あんこの町」「文学作品に沢山登場する町」などを揚げ、興津の歴史・文化・産物などを活かしたまちづくりを推進しています。



興津のシンボル
あゆむくん

「薩埵峠」

かつて薩埵峠には道らしい道はなく、旅人には海岸の波の合間を通る、危険な難所でした。現在は、富士山を望むハイキングコースとして整備されています。

万葉の歌人 山部赤人が「田子の浦ゆ うち出でて見れば 真白にぞ 不尽（富士）の高嶺に 雪は降りける」と詠んだと言われているように、峠越しに見る富士山は美しく、世界文化遺産構成資産として登録された三保の松原に並ぶ、素晴らしい景勝地と言えます。



「清見寺」

奈良時代に創建された東海道屈指の名刹。

国の名勝に指定されている庭園や、徳川家康公が接木した臥龍梅など、多くの指定文化財があります。

境内の五百羅漢像は、島崎藤村の作品にも登場しています。



「興津坐漁荘」

最後の元老・西園寺公望公が大正8年、興津清見寺町に建てた別荘。風光明媚な清見湾に臨む坐漁荘は優れた職人技が凝縮された建築物です。

老朽化した建物は明治村に移築されましたが、静岡市により当地に忠実に復元され、平成16年度より一般公開されています。



興津宿薄寒ざくらまつり



2月初旬、薄寒ざくらが開花する頃、果樹研究所の一般公開日に合わせて開催されます。

明治45年、アメリカの首都ワシントンに日米親善の証しとして興津果樹研究所で育てられた桜の苗木3,020本が贈られ、ポトマック河畔に植えられました。その桜は植え継がれ、今も毎年、桜まつりがおこなわれ日米友好のシンボルとされています。一昨年、100周年を迎えるに当たり、ワシントン桜誕生の地、興津に全米桜の女王が親善訪問されました。



興津地域は、日本の製菓業の基礎を築いた北川勇作氏と内藤幾多郎氏の出身地です。その業績を称えて、祭りのテーマを「あんこのふるさと興津」として、毎年盛大に開催しています。